第１１回 南部地区街づくり協議会　議事録	
開催日時	平成29年２月６日（月）14：00～16：00
開催場所	４階　特別会議室
出席委員	委員１４名
欠席委員	委員２名
事務局	城内理事、加藤課長、上田主幹、岩田課長補佐、島田主査 （ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑ） （農林課）山村課長、色雲係長、（産業振興課）東課長、米田係長、下元主事
決定事項	

議事内容

１．開　会　－14：00－

２．市長挨拶

今年に入って初めての協議会。当協議会にてご協議いただいていたことが天理市全体の街づくりに非常に大きな影響を与えてきている。例えば、県で事業化していただいた九条バイパスは、南部地区での議論や活動が県市連携という形で実現されたもの。

本日は、市内各地区の動きをご紹介させていただくとともに、南部地区との連携について、また、これまでの活性化についての議論に加えて、今後重要となってくる生活支援について、国際芸術家村といった新たな動きについても確認をさせていただきたい。

３．事務局連絡

前回協議会の議事録の確認。資料確認及び委員提供資料の紹介

４．議　事

以下、議事進行は会長が進める。

（地区内及び市内における取組みについて）

会　長

・これまでの議論や地域内での動きを踏まえて資料（別添「天理市内の取組みと連携について」）を作成した。まず、左上の郡山ＪＣＴから市内に延びる側道がこの春を目途に全線開通を予定している。市内から高速道路までのアクセスは飛躍的に向上すると考えている。南に移動すると旧消防署跡地の売却が成立しており、既存のツタヤ様が店舗規模を約２倍にしてオープンすることが決定したところ。民間ビジネスの観点から、市内での事業拡大を考えていただくことは大変ありがたい流れと思う。

また、先ほどご紹介した九条バイパスは都市計画の決定がなされ測量に入る段階。２月からは、天理駅周辺から長柄運動公園まで自転車で安全に来ることができる川沿いのサイクルルートの整備を市で進める予定。長柄運動公園も健康づくり、ニュースポーツの場として位置付けて整理をしていきたい。

さらに南に進むと、定住自立圏で連携している田原本町が平成30年の完成に向けて唐子・鍵遺跡の道の駅整備を進めておられる。

そこから東に進むルートは、「農村周遊自転車ルート」として県で整備をしていただく予定。ルート上の南檜垣営農組合様では、自身の農作物を活用した「モノづくり」にも熱心に取り組んでいただいている。少し北側の長柄町では、旧飯田酒蔵様よりの酒蔵活用についてもご相談を頂いているところ。

柳本の黒塚古墳周辺では、エリアの分科会において色々とご議論を頂いているので後ほどご紹介する。柳本マルシェでは月２回の定例で地域産の農産物を販売をしていただいており、毎回オープンの９時代でほとんど売り切れとなる盛況振りである。

山の辺の道周辺では、長野県でペンションをされていた方が新しく紅茶を楽しめる英国カフェをオープンされた。トレイルセンターもいよいよ４月からリニューアルオープンさせていただく予定。上長岡集落では地元の廃寺を復興して新たに農産物加工所を整備され、これから加工品等の開発を進めていただくとのこと。

さらに北に向かうと奈良県国際芸術家村プロジェクトが進んでおり、１月には無事に地権者との契約を済ませたところ。本協議会においても以前より道の駅に関するご意見を頂いているが、県と市が連携する中で同施設にその要素が組み込まれることが予定されている。

４月にオープンする天理駅前広場では、各地域の魅力を発信や物産販売、サイクリング等を通して地域に繋げていく。

前後したが、大和神社では、ちゃんちゃん祭の無形文化財指定や国民文化祭での紅しで踊りの発信等にも取り組んでいただいている。

ざっとご説明しただけでも、これだけたくさんの取組みをしていただく段階まで、まちづくりが進んできたと実感する。続く議事の中で詳しくご説明し、ご意見をいただきたい。

（地方創生交付金を活用したブランディング事業報告）

会　長

・地方創生の交付金を活用して天理ブランドの構築と定住・移住促進の取組みを進めてきたが、いくつか成果物ができてきたのでご紹介させていただきたい。

※スライドにより、「めぐみ・めぐる・てんり」等の映像を紹介。

・最初の映像は、ツアーを企画したペーパースカイという雑誌社が制作した映像。関東圏から参加費を払ってでも多数の参加があり、地域の価値を再確認することができたと思う。

・次の映像は、本市のブランディングプロデューサーであるgraf服部氏と一緒に作成した定住・移住促進のための市外・県外向けＰＲ映像。３月ごろに完成を予定しており、都市部などに順次プロモーションをかけていく。

（地域農産物の新たな販売ルートの確立）

事務局

・天理の「柿」沖縄進出促進プロジェクトとして、特産品である柿の販路を拡大し、農業所得の増加に向けた県外への市場開拓と天理市産のＰＲを進めている。

・沖縄県での柿生産量は統計上ゼロ、消費量は一人当たり年間4.53個とギャップがある。これらのデータより沖縄では柿は好まれるスイーツであると考えられる。

・奈良のアンテナショップを経営するＪＡならけんグループの卸売会社と連携し、生産者とＪＡ沖縄のファーマーズマーケットを繋ぐ計画。平成28年度の実績で既に沖縄で3店舗・60ケースの販売があった。今後は、関係者間での協定締結により仕組みの確立を行うとともに、イチゴといった柿以外の農産物についても継続的・安定的な流通支援に繋げていきたいと考えている。

・県の取り組みの一環で、桜井のオーベルジュや春日野国際フォーラムでレストランを展開されている株式会社平松様が天理の食材を使用した特別ディナー展を企画されている。天理市からはイチゴ等の食材を使用していた抱く予定。同社東京丸の内のレストランにおいても食材使用をご検討をいただいているところ。

会　長

・定期的に販路として本市の食材を使っていただく流れが出来てきている。農産品は売り込み方次第で市外・県外へ十分に販路拡大することができる。新たに天理で就農していただくためにもブランド力をしっかりつけていきたいと考えている。

委　員

・南檜垣営農組合では、大豆と小麦を中心に栽培を行っている。特に奈良県の准奨励品種で当営農組合しか栽培していないアヤミドリ（大豆）の加工品として、きな粉と煎り豆、豆乳を販売してきた。この度、市のブランディング事業の一環で、市内事業者と連携して新たなパッケージによる豆乳製品の開発を進めている。ちょうど本日試作品が出来上がり、今後販路等について検討していく段階。

事務局

・天理の長い歴史で積み重ねられてきた人々の営みやモノ・コトといった「めぐみ」と、時代が、また、来られた方が周遊される「めぐる」を組み合わせ、「めぐみ・めぐる・てんり」というコンセプトで天理のブランディングを構築している。「めぐみ」のなかでも農産物は代表的なモノ。大和青垣、山の辺の道、人の暮らしを表現したロゴと併せて、新たに内装整備するトレイルセンターや天理駅前広場に設けるショップで天理ブランド商品を販売し、市内はもちろん市外・県外に向けて発信していきたいと考えている。

委　員

・沖縄での柿の販売促進は大変良い取り組みだと思うし新鮮に感じる。沖縄の気候や農産物の日持ちの関係もあると思うので、加工品も考えていけば良いのでは。数年間沖縄に住んでいたことがあるが、日常生活で柿が食べられている姿をあまり見掛けなかった。もしかしたら観光客やホテルなどで提供されているのではないか。

事務局

・柿については以前より柿チップのような加工事例があるので沖縄向けについても検討したい。

委　員

・吉野地域の冨有柿は冷凍して真空パックになっているものがある。シーズンをずらして出荷するのも一つの戦略ではないか。

会　長

・実際に沖縄ではどのような機会に、どのような場所で、どのように消費されているか、供給方法や時期を含めて先方と検証をしながら進めていきたい。

委　員

・海知町では白いイチゴを栽培されており、赤と白の紅白で販売されている。そういったインパクトのある農産物をブランディングの中で取り上げていけば良いのでは。

会　長

・天理駅のショップやトレイルセンターで取り扱う商品について検討を進めているところなので、このように意見交換させていただく中で新たに情報をいただけるのは大変ありがたい。

・駅前広場で開催していたマルシェは、柳本マルシェの定例開催に習い、開催日を決めて行うことになった。来訪者にも分かりやすく、認知度の向上が期待される。

（黒塚古墳周辺エリア検討会での意見報告）

事務局

・前回の協議会からご相談していた黒塚古墳周辺エリア検討会について、昨年 11 月 28 日に第 1 回を開催した。エリアで活動されている団体の皆さまにお集まりいただき、エリアの強みや魅力、ニーズや課題について協議を行った。特に以前より課題として挙がっている案内表示について、必要箇所や内容をご審議をいただいた。

※資料 P2～5 により、第 1 回検討会での意見等について報告。

会　長

・資料の後半に参考で入れているのは、最近、地方創生で有名になっている徳島県神山町の案内標識。町内の随所に設置してあり手作りの簡単なものでも来訪者にとっては大変わかりやすくルートを案内することができる。

・本市の北部地区では、石上神宮から北へ向かう山の辺の道ルートへの道標整備を進めている。以前より南部地区、特に黒塚古墳周辺の案内表示についてご意見をいただいているところ。引き続き分科会で検討を進めていきたい。

委　員

・地域独自の模様が入ったマンホールが話題になっており、天理市にも三角縁神獣鏡をあしらったものがいくつかあると聞いている。マンホール巡りをされるグループもあるとのこと。三角縁神獣鏡の出土時には地元商工連盟でタオルを作ったこともある。

事務局

・黒塚古墳周辺と萱生町の山の辺の道にも設置されている。三角縁神獣鏡のデザインをもっと表に出して黒塚古墳や地域に繋げていければと思う。

委　員

・黒塚古墳の墳丘上に、発掘時の中の様子を模した陶板が設置されているが、経年劣化が激しいため修復をしたほうがよい。できれば再度陶板でやってもらいたいと思う。当時の様子がキレイにわかるので是非お願いしたい。

会　長

・黒塚古墳に来ていただいた際に、現地で体感できるところの充実が必要ということかと思う。引き続き検討していきたい。

事務局

・県立大学生がフィールドワークをされた際に、先に展示館で歴史や重要性について学んでから実際に墳丘に登れば、興味の湧き方や古墳や鏡の持つ意味がよくわかるとの意見が多数あった。案内表示を検討するにあたり、地域資源を回る順番についてもうまく案内していければと思う。

委　員

・黒塚古墳の墳丘上からは、風景が見えると言うよりも「歴史」が見えると感じている。桜井市の箸墓古墳や大和三山など、古くから同じ見え方をしているというロマンが感じられる場所。観光地では写真を撮れる場所が好まれて、わざわざ階段を登って行きたくもなるが、黒塚古墳の西側には大きな木が茂っており夕日も見えない。写真を撮って情報を拡散してもらうのも一つの戦略だと思うので、景観についても検討をお願いしたい。ベンチ等を置いて恋人の聖地などにするのも話題性があってよいのでは。

・案内表示は統一性が重要。本来は桜井からずっと同じデザインであればよいと思う。個別の案内に加えて、一定間隔で地域の全体図の案内表示があればなお良い。自分が今どこにいるか分かることが、来訪者にとって満足度の高い案内になるだろう。

（長柄運動公園における健康づくりの取組み）

事務局

※資料P6により、長柄運動公園を中心とした健康づくりのモデル構想について説明。

会　長

・長柄運動公園では様々にスポーツに親しんでいただいているところだが、今の時勢に合わせ、健康づくりを通して地域が繋がっていけるような拠点にしていきたいと考えている。

・新しくなる天理駅前広場にも健康遊具を設置する予定になっており、天理大学の専門教授に意見をいただきながら選定等を進めている。来年度以降、順次、市内の都市公園にも健康遊具を設置する予定なので、長柄運動公園を拠点として使い方の講習会等を通して地区間の連携を進めていきたい。

（買い物支援に関する取組み）

事務局

※資料P7により、買い物支援に関して、ならコープと連携した取組みについて説明。

会　長

・九条バイパスが完成すれば朝和からイオン等へのアクセスはしやすくなるが、やはり車が無ければ買い物に出かけるのは難しい状況と思う。柳本では桜井方面に行く方が近いという声さえあるのが現状。今はまだ皆さん現役で車に乗られているが、今後５年で状況は大きく変わり買い物難民の問題に直面すると思う。

・まずはご協力いただけるならコープ様と連携し、移動販売のみならず本市の公共施設をその拠点に使っていただくことができればより利便性が高まると考えている。

委　員

・確かに地域にはスーパー等がなく個人の商店も廃業されてきている状況。どこに買い物に行けばよいか困っておられる方もおられる。ならコープとの連携はもちろん、市内店舗への送迎サービス等についてイオン等と協議してはどうか。行政として積極的に取り組んでいただければありがたい。

委　員

・ならコープの販売は、組合員でなくても買い物ができるのか。

事務局

・移動販売については本来組合員のみのサービスだが、市と買い物支援に関する協定を締結させていただくことで、幅広く利用していただくことができるとのこと。既に高齢者の見守り活動に関してならコープ様と協定を締結している実績があり、今回についても新たに協定を結ぶ方向で調整を進めている。

・買い物バスはあくまで店舗での買い物になるため組合員になっていただく必要があるが、退会すれば出資金は返却されるとのこと。

委　員

・今は営業されていないかもしれないが、以前は柳本駅周辺などへ個人商店の方が移動販売に来られていた。ならコープとはもちろんだが、地域の個人商店やイオンといった事業者ともうまく連携して実施者が増えていけば効果的に支援をすることが可能では。

委　員

・少し山手の集落は車が無ければいずれにせよ買い物に行けない状況。買い物に行く手段としてコミュニティバス等の延伸を検討していただければありがたい。

会　長

・ご意見をいただいた方法も含めて、さらに検討を進めていきたいと思う。市からの助成や公共施設の活用がうまくマッチングできれば、効果的に支援策を展開できると考えている。市内の他地

区から比べると、やはり南部は買い物の課題が大きい地域。まずはならコープ様と連携してモデル的に取組みを進めていきたい。

・コミュニティバスの延伸については、一筆書きで市内をくまなく回るとかなりの時間がかかるため難しいところもあるが、川西町と連携し市西部から結崎駅へ向けた路線の拡充を検討している。今後は電車の駅に合わせてもう少し小回りするルートを複数設けるということも検討を始めている。公共交通と市のコミュニティバスをうまく組み合わせて、きめ細やかな範囲をカバーするという方法も視野に入れていきたい。

（奈良県国際芸術家村の進捗状況について）

事務局

※資料P8～11により、奈良県国際芸術家村に関する進捗状況等について説明。

委　員

・先日金沢の同様な施設を見学してきたところ。伝統芸能の太鼓といった練習もされていた。参考になる事例として一度調査してみてはどうか。

会　長

・平成32年の完成に向けて県で検討を進められているところ。施設が地域の活性化や発展に繋がるように、市として意見を言っていきたいと考えている。

・芸術家等が施設を含めた地域で滞在し、創作活動をおこなうアーティストインレジデンスと言われる手法について、市内で検討をしてほしい旨県より要請があった。古民家や空家の活用が考えられるが、委員の皆さまより情報提供をいただけるとありがたい。

・本協議会で以前、施設周辺の交通や車の動線を検討する必要がある旨ご意見をいただいていたが、今回、施設に近接して新たに駐車場を整備することになった。市で約240台、天理教様で約170台分を確保する。国際芸術家はもちろん、近くのラグビー場への来訪者や山の辺の道に来られた方の観光駐車場として広く活用していただけると考えている。国際芸術家村を支点に山の辺の道からトレイルセンター、大和神社等を一周してくるルート等も提案出来るのでは。

（新たな天理駅前広場について）

事務局

※資料P12～23により、天理駅前広場コフフンについて説明。

・4月1日より供用開始、4月23日にオープニングセレモニーを予定している。この日だけが盛り上がるのではなく4月から6月までをオープニング月間とし、市内で活動されている団体等に様々な使い方を試していただき、今後の広場での活動に結び付けていただきたいと考えている。

・柳本もてなしのまちづくり会様に対し、毎年、黒塚古墳で行っていただいている柳灯会の事前ＰＲをコフフンでやっていただけないか打診している。人が多く集まる天理駅前で各地区の様々な取り組みをご紹介させていただくことで、効果的に地域の魅力を発信することが出来ると考えて

いる。天理駅前の賑わいを市内全体に広げ、各地を繋ぐということを強く意識しながら進めていきたい。

委　員

・新たな駅前広場については大変楽しみに感じているところ。繋ぐというキーワードで、地域の新たなお店や古くからされている事業者の情報なども天理駅前で紹介していければ良いのでは。地域振興で一番大切な競争と連携のバランスをうまくとりながら進めていただきたい。

会　長

・市内の地域情報を天理駅前で発信させていただくことは最も大切だと考えている。これまでの行政の発信と違い、公の施設の情報だけではなく、素敵なお店といった民間の情報もどんどん発信させていただければ良いと思う。

6．次回の日程と主な協議内容

次回第 12 回協議会は状況を見て調整。事務局より改めてご連絡させていただく。

7．閉　会　－16：30－